

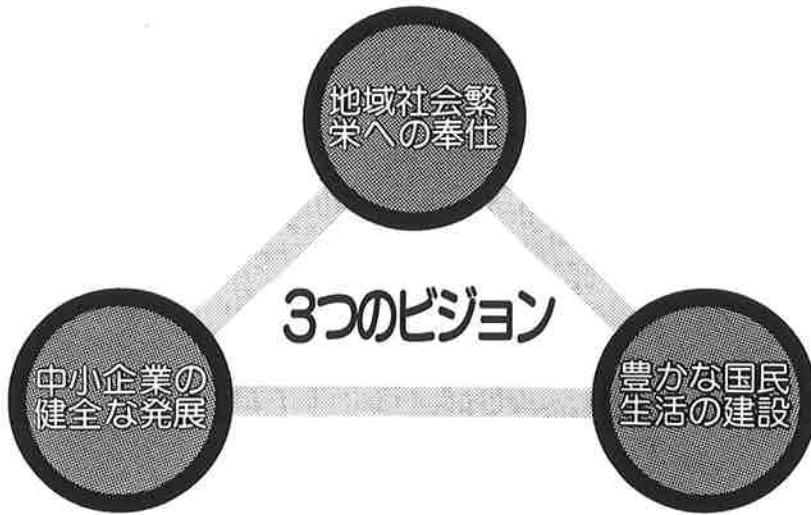
ともえ

No. 44



■函館商工会議所報■
1984 7月号

豊かさを
地域に築く
商工会議所



はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町字飯生町30番	TEL73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511(代)	尻岸内支店	亀田郡尻岸内町字中浜115番の4	TEL84-2111(代)
弁天町支店	函館市弁天町15番6号	TEL26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521(代)			

●ととえ・44号目次●

巻頭言	1
会議所だより	2
調査レポート	6
アドバイスコナー	10
寄稿文	12
ご存じますか	14
事務局日誌・雑感	17
ティータム	18
告知板	20



Shing
70

●巻頭言●

北海道は正に観光シーゾンの真最中です。北海道新聞社が調査した道内観光地に対する世論調査によりますと、道民が行きたい観光地のトップは利尻、礼文、天売、焼尻島を含む留萌、宗谷地方の三〇％であり、これについて函館、大沼など道南地方の一六％が二位でありました。

未知プラス遠隔地に人気が集まったようです。

函館も観光産業は街の活性化をはかる重要産業として取りあげ、特に十年前からコンサルタントによる外部から見ただ「函館圏観光開発基本計画」や「函館市観光計画」の策定など研究されており、昭和五十四年函館商工会議所は「函館圏観光開発に関する意見書」を発表しております。

昭和五十七年のNHKによる函館市民意識調査では、函館は将来どのような都市として発展したらよいかとの設問に、「歴史や文化財を生かした観光都市」が二二％で一位でありました。

函館圏の観光資源は、世界の三大夜景の一つとして評価されている函館山からの素晴らしい展望、異国情緒あふれる西部の街並みや坂道、幕末の歴史と五稜郭、大沼国定公園と駒ヶ岳等々自然の景観に加えて人情味あふれる親切さは第一級でありましょう。「ロマンと異国情緒の北の街」「夜景と坂道の美しい北の街」「歴史豊かな北の街」とも言われております。

観光は気分転換を計り、自然や名所を楽しみ、見る、食べる、考えることが大切です。

三年後には津軽海峡を横断する青函海底トンネル五十四キが観光資源として加わり、青森県との広域観光ルートもいよいよ整備されることと思えます。

空港は駅からわずか五キ、湯の川温泉もあります。

ご家族をろって函館においてなることを期待致します。

会議所 だより



W. T. ...



あいさつをする川田会頭（ホテル函館ロイヤルで）

58年度 収支決算 一億六千五百万円承認

事業活動はテクノ基金など推進

第4回 通常議員総会

本商工会議所は六月二十三日午前十一時からホテル函館ロイヤルで第四回通常議員総会を開催、議員七十四人（うち委任状提出者二十五人）が出席し、昭和五十八年度事業報告、同収支決算報告及び常議員一人補充選任等を審議、いずれも原案通

り承認されました。

開会に先だち、本所永年勤続職員岡崎正人、竹内恭子（十年）に対し川田会頭から表彰状を贈呈したあと、本年四月以降六月までの間に物故された本所議員、並びに同ご家族六人の霊に対し出席者全員黙とうを捧げ弔意を表しました。

次いで川田会頭があいさつを述べたあと議長となり議事に入り、七件の報告事項のあと議案四件を審議しました。なお報告事項、議案は次の通りです。

◎報告事項

- ① 議員異動 Ⅱ 一号議員（旧）竹田鉄夫（新）石黒義男（布目水産食品冷蔵㈱代表取締役） 三号議員（旧）高間勉（新）矢野康（函館空港ビルディング㈱代表取締役社長） 二号議員（旧）矢野康（新）松崎正幸（函館商工信用組合専務理事）。辞任 Ⅱ 一号議員小山肇一（㈱三喜屋前代表取締役）

- ② 総務委員長選任 Ⅱ（新）函館三菱ふそう自動車販売㈱代表取締役会長
- ③ 日商・道商連諸会議
- ④ 部会・委員会
- ⑤ 陳情・要望活動
- ⑥ 新会員加入状況
- ⑦ 月別業務概況

◎付議事項

- 第一号議案 昭和五十八年度事業報告 1 総括的概要 2 事項別状況 ① 定款及び規約等 ② 組織 ③ 選挙及び選任 ④ 事務局 ⑤ 庶務 ⑥ 会議 ⑦ 事業 ⑧ 登録 ⑨ 会館・事務所 ⑩ 関連団体への関係 ⑪ その他

第二号議案 昭和五十八年度収支決算報告（別記）

第三号議案 常議員一人補充選任、前常議員高間勉殿死去により景山三郎議員（㈱和光ビル取締役社長）が選任されました。

なお同日、前記通常議員総会に先だち午前十時から同ホテルで第七回常議員会を開き、通常議員総会に付議する議案 ① 昭和五十八年度事業報告 ② 同収支決算報告 ③ 常議員一人補充選任 ④ 新会員の加入承認等について審議し、それぞれ原案通り承認され通常議員総会に上提しました。

待望の「テクノ函館」承認

21世紀へ向け新しい産業構造を

函館市と上磯、大野、七飯の三町が七月十四日全国十二番目のテクノポリス（高度技術集積都市）地域に指定され、通産省平河立地公害局長から道の永沢副知事に開発計画承認書が交付されました。

テクノポリスは、昭和五十五年通産省が打ち出した二十一世紀へ向けた新しい産業都市構想で、電子工業、精密化学、生物工学などの先端技術産業を育成し、同時に大学、研究施設、住宅などを整備して「産・学・住」のバランスのとれたまちづくりを目指す、というものです。

これに対し、函館は同年八月いち早く候補地として名乗りを上げ、以来本所は函館市、道と共に国の指定を目指し総力をあげて強力な陳情活動を展開してきました。

「テクノポリス函館」は「歴史と伝統にはぐくまれた国際性がひらく北方圏型テクノポリス」が基本理念で、開発対象地域は一市三町の九万六千二百㊦。海洋関連産業群の形成を重点とし、目標年次の六十五年には人

口四十三万人、工業出荷額が四千五百億円になると推定しております。

五十七年八月函館地域は〆条件付き〆で他の十八候補地と共に開発構想策定地域に指定され、道は五十八年十一月道立技術センターの函館建設を決定。テクノ函館の開発計画を

通産省などに提出。その後、函館圏技術振興委員会・函館圏企業誘致推進協議会・函館市工業振興促進条例

・財団法人テクノポリス函館技術振興協会などを設置してテクノポリス誘致体制を確立しました。特にテクノ技術振興協会の設立により進出企業に融資するための基金三億円（うち本所窓口扱い分民間一億円）の募集を強力に推進した結果、地元での募集は目標額をはるかに上まわる実績をあげることができました。

これらが通産省の評価するところとなり、この度の指定となりました。

これからの正念場です。官民一体となって自助努力し、名実ともに立派なテクノポリスを実現しなければなりません。

昭和58年度函館商工会議所総括収支決算書

自昭和58年4月1日
至昭和59年3月31日 (単位：円)

収入の部			支出の部		
勘 定 科 目		本年度決算額	勘 定 科 目		本年度決算額
1. 会 費		65,602,500	1. 事 業 費		38,602,167
1. 会 費		51,950,000	1. 商 工 振 興 対 策 費		18,907,555
2. 特 別 会 費		13,320,000	2. 調 査 模 式 費		1,458,900
3. 過 年 度 会 費		332,500	3. 小 規 模 事 業 指 導 費		17,053,002
2. 負 担 金		5,006,000	4. 共 同 費		1,182,710
1. 特 商 負 担 金		5,002,000	2. 管 理 費		175,801,784
2. 過 年 度 特 商 負 担 金		4,000	1. 給 与 費		123,393,464
3. 事 業 収 入		41,794,669	2. 福 利 費		15,127,891
1. 商 工 技 術 業 務 費		1,830,800	3. 旅 行 費		4,096,840
2. 共 済 事 業 費		21,649,233	4. 事 務 費		14,971,477
3. そ の 他 収 入		18,314,636	5. 交 渉 費		1,096,264
4. 補 助 金		67,351,742	6. 渉 外 費		1,321,553
1. 国 ・ 道 費 補 助 金		57,351,742	7. 公 会 費		4,923,000
2. 市 費 補 助 金		10,000,000	8. 函 館 課 費		10,188,995
5. 貸 室 料		27,633,370	9. 雑 費		682,300
1. 産 業 会 館 料		20,650,198	3. 退 職 給 与		5,000,000
2. 別 荘 料		6,983,172	1. 退 職 給 与 金		0
6. 雑 収 入		3,882,757	2. 退 職 給 与 引 当 金 繰 入		5,000,000
7. 繰 越 金		54,282,451	4. 積 立 金		1,000,000
			1. 建 物 修 繕 積 立 金		1,000,000
			5. 納 税 充 当 金		96,390
			6. 繰 越 金		45,053,148
計		265,553,489	計		265,553,489

地域開発の推進・活性化を

34回全道商工会議所大会

千 歳 市

第三十四回全道商工会議所大会が七月十一日に千歳市で開催され、本商工会議所からは川田会頭はじめ二十人が参加したほか、来賓、全道各地商工会議所から多数が参加し、当面する道内経済問題等を中心に活発な意見の交換が行われました。

午前九時から金融税制、商工振



発言する川田会頭（道商連副会頭）
＝千歳市文化センターで

興、運輸観光、開発促進・産炭地域振興の各分科会が行われましたが、その中で特に本所関係では、商工振興分科会において高野副会頭から「景気浮揚対策の推進について」が、運輸観光分科会では下郡山副会頭から「青函トンネルの建設促進について」と加藤副会頭から「空港の整備促進について」が、開発促進・産炭

地域振興分科会では村瀬副会頭から「テクノポリス函館の建設促進について」がそれぞれ提案され、午後一時から行われた本大会に上提され、満場一致で可決されました。

なお、本大会の席上、多年にわたり商工会議所運営に功労のあった議員・職員の表彰が行われましたが、本所関係は次の通り十人です。

- 竹田留治（前常議員）○西村敏雄（常議員）○辻才次郎（常議員）○阿部文男（議員）○秋本勲（常議員）○沼崎弥太郎（常議員）○堀田純一（常議員）○佐藤悦郎（議員）○野口幸治（議員）○竹内恭子（職員）

本所ではさきに、函館地域に所在する商工業者を当地のほか広く全国に紹介して、企業活動の円滑化と商工業者の発展に寄与することを目的に七九年版「函館商工名鑑」を刊行して

'84商工名鑑発刊

についてお願い

参りましたが、
発刊後すでに五
年を経過し、掲載内容に多くの補訂を要するとの判断から、この度あらたに八四年版を刊行することとなり、目下準備を進めております。

発刊に当たりましては、本所会員並

びに特定商工業者を中心に約六千五百事業所の概要を掲載する予定でありますが、掲載内容の誤記を防止するため、後日（七月下旬）本所オフ・コンに登録されておりますデータ1を調査票にプリント・アウトの上お送り致しますので、記載内容に変更、追加等の箇所があります場合には、ご訂正の上ご返送（返信用封筒を同封致します）いただきたく、よろしくご協力をお願い致します。

—— 会員増強運動にご協力を ——

本所では、21世紀の街づくりについて懸案事項を目下総力をあげて推進しておりますが、より一層推進を図るためには、本所の財政基盤を確立することが大きな課題となっております。

本所では、この課題を解決し、より一層の会議所運営の強化を図るため会員・議員・事務局一体となった「会員増強運動」を展開することとなりましたので、事情ご賢察のうえ新規会員勧誘についてご協力下さいませようお願い申し上げます。

なお、7月下旬までに会員各位に「新会員紹介状」をお送りいたしますので、その節はよろしくお願い申し上げます。

加工品・菓子25点に違反品

観光土産品の試買検査会

「観光函館」のイメージダウンを招く土産品を一扫しようと、観光土産品試買検査会が七月三日、本所で開催されました。

これは、土産品の過大な包装や不当な表示をチェックし、旅行者がよい土産品を安心して購入できるようにと、みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会が毎年この時期に実

施しているものです。

この日検査の対象となったのは、函館駅、五稜郭公園、湯川温泉、函館空港、大沼公園などの周辺土産店から無作為に買い集められた食料品四十点で、公正取引委員会、消費者協会などの代表ら八人の審査委員により厳重に審査されました。その結果、水産加工品の詰め合わせ一点が過大

包装により不合格となったほか製造年月日や重量などの表示事項に不備があるもの、過大包装と誤認されなためにも包装容器に工夫が必要なものなどが、農、水産加工品で十三点、菓子類で十一点が指摘されました。

これら違反商品については、同協議会々員以外の製造元が多く含まれているため、同協議会からの通知のほか、公正取引委員会を通じて指導が行われることになっていますが、業界の自主的な規制を徹底するためにも同協議会への早期加入が望まれます。



観光土産品をチェックする検査会委員たち
—本所会議室で

「そろばん函館」に浪岡昭夫さん

第37回函館地区珠算競技大会

本所主催による第37回函館地区珠算競技大会が七月十五日本所で開催され九十九人が参加しました。

なお、上位入賞者は、今年九月十六日に釧路市で開催される全道珠算競技大会に函館地区代表選手として出場することになっています。

競技の結果「そろばん函館一」には浪岡昭夫さん、「そろばん中学生一」には小野慶子さんがそれぞれ栄

誉に輝きました。

入賞者(一位のみ)は次の通り

△団体▽ ◎高校の部 函館商業高校、◎中学校の部 深堀中学校

△個人▽ ◎一般の部 浪岡昭夫

(浪岡塾)、◎高校の部 内山直美

(函館商業)、◎中学校の部 小野

慶子(深堀中)、◎小学校の部 渡

辺英男(柏野小)

以上敬称略

ファミリーレストラン
Mr. Jimbayがお届けする。

箱館ちゃんぽん **餃子の店**

8/1 OPEN

産業道路沿ヨーカー道一に
駐車場 50台収容
☎ 55-1116

花巻 駿北病院 函館ス/リ イトーヨーカ堂
産業道路 ミサフホーム ●当店 ●ゴルフレンジ

これまで順調であった輸出もやや落ち込みをみていることから、操業度は低下。

合板は、末端実需低迷からこのところ荷動きが一層鈍化しており、また原木シリ高に加え、製品市況は弱含みに推移しているため、採算は幾分悪化気味。

(農 業)

農作物の生育状況(6月央)は、これまで融雪の遅れや低温等から全般に遅れ気味となっていたものの、5月下旬以降好天が続いたことから、徐々に回復している模様。

(漁 業)

日本海マス漁は低調のまま推移しているほか、近海マイカ漁も海水温が例年になく低いことから、マイカの来遊が遅れている模様。

(小売商況<5月中>)

市内大型小売店(10か店)では、身回り品が前月高伸の反動から伸び悩んだものの、衣料品は荷動きの鈍かった夏物衣料が5月下旬の天候回復から持ち直したことを映じて若干増加、また、食料品、家庭用品も引き続き堅調な売れ行きを示したことから、5月中の売上高は前年同月比1.8%増となった。

一方、耐久消費財は、乗用車販売が3月の既往ピーク更新や物品税引き上げ前の駆け込み需要増の反動からやや伸び悩

んだものの、地合いは引き続き底堅く推移している。家電製品は、小売筋が白もの商品等の手当て買い姿勢を慎重化させたこともあり、荷動きはいまひとつ盛り上がり乏しい状況。

3. 金融事情(5月中)

○管内金融機関の実質預金は、金融機関預金は前年を大幅に上回る増加を示したものの、公金預金が伸び悩んだうえ、一般預金も前月末滞留した法人流動性預金の剝落を主因に大幅減少、結局月中増加額は31億円と前年(同187億円)を大幅に下回った。

一方、貸し出しは建設関連の着業資金が幾分増加したものの、全体としての企業需資は依然盛り上がりを欠いているうえ、前月末滞留した支手決済資金の落ち込みもあり月中29億円の減少(前年同7億円)。

この間、管内銀行の貸出約定平均金利は月中△0.018%と小幅低下。

○銀行券は、発行が前年比1割方増加したものの、これを上回る順調な還流をみたことから、月中還収超額は79億円(前年同70億円)となった。

○財政収支は、簡保貸付が増加した一方、専売等の受け入れも前年を上回ったことから月中払超額は134億円と前年並み(同133億円)。 以上

統 計 資 料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高(10店) 昭和59年5月

品 目	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣 料 品	2,571,503	89.8	101.0
身 回 品	461,853	84.8	88.1
雑 貨	703,557	89.6	99.6
家 庭 用 品	678,601	82.4	108.6
食 料 品	1,647,035	95.3	101.9
食 堂 ・ 喫 茶	188,249	95.2	100.4
サ ー ビ ス	70,322	100.1	117.4
そ の 他	243,404	95.1	132.0
総 額	6,564,524	90.3	101.8

※ 10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショッピングパズプラザ湯の川店の各店をいう。テーオー小笠原については食料品を扱っていない。

5月

昭和59年6月26日発表

金融経済概況

日本銀行函館支店

1. 概況

○最近の管内経済動向をみると、造船は引き続き低操業を強いられているほか、肥料、セメント等も前年を下回る生産水準となっているが、電子部品（半導体）、化学（魚油、飼料）、製缶機械等が高操業を続行しているほか、段ボール、乳加工業も高水準の前年並みの生産を継続、一次産業面でも農作物の生育が5月下旬以降の好天を映じ、回復傾向にあるなど、前月同様明るい面も窺われる状況。

こうした状況下、5月時点調査の管内企業短期経済観測調査をみると、業況は「悪い」とする先が依然として多いものの、前回2月調査に比べればかなり減少先き行きも緩やかながら改善するものと予測している。

金融面では、企業の資金需要は建設関連の着業資金が幾分増加したものの、全体としては引き続き盛り上がりを欠いている。5月中の管内銀行の貸出約定平均金利は小幅低下。

2. 主要業種別動向

（造船）

陸上工事に大口受注がみられたものの、主力の新造船の受注環境は依然厳しく、手持ち受注残が残り少ないことから、引き続きアイドル人員が発生。

（電子部品）

主力のコンピュータ用メモリー型に加え、家電製品、OA・FA機器関連の需要もおう盛とあって、引き続き生産即出荷のフル操業。

（珍味）

消費地問屋では、春需手当てを前倒しに行った反動に加え、7月から水揚げ本

格化見込みの当年物原魚の先安感もあり、このところ手当て姿勢を慎重化。このため荷動きは幾分盛り上がりを欠いている。

（化学）

魚油、飼料は、オホーツク海、道東沖スケトウ漁の好漁を映じ、この時期としては手持ち主原料が幾分厚目となっているほか、引き続き海外植物油産地の生産減の影響等から需要が堅調なため、生産は前年水準を上回っている。肥料は、5月下旬ころからの天候回復を映じ、荷動きは持ち直しているものの、在庫水準が前年に比べやや高目となっていることから、生産調整を行っている。

（機械）

製缶機械は缶詰機械、パーツ類などを中心に前月を上回る受注がみられたほか、引き続き手持ち受注残の納期に追われ、なお高操業を継続。合板機械は、新規受注が伸び悩んだものの、既受注残の消化のほか、納入先への製品据付け、試運転等の実施もあり、ますますの操業を継続。

（段ボール）

青果物向けは、春野菜が天候不順の影響を受け出荷時期が大幅に遅れた本州物と競合し、市況が暴落したことから盛り上がりを欠いているが、水産関連向けで北洋サケ・マス用カートンケースの受注増がみられたほか、加工食品向け需要も堅調なため、生産水準は前年を幾分上回っている。

（建設関連）

地元建設業者の受注は前年を若干下回っているが、最近の好天に恵まれ工事は順調に進捗している模様。

（乳加工業）

主力の飲用乳、製菓用煉乳の荷動きが持ち直しているうえ、粉乳が大手乳業メーカーからのスポット受注増を映じ好調な売れ行きを示したことから、生産水準は幾分上向いている。

（その他の製造業）

セメントは、官公庁の公共工事の前倒し発注などから販売量は持ち直しているが、これまでの需要不振を映じ販売店在庫がやや厚目となっているため、道内向けがなお盛り上がりを欠いているほか、

主な仕入地域としては、函館市内を除くと道内では札幌が、道外では繊維品および衣服・身の回り品の近畿、中京は別として総体的に関東地方との結びつきが強い傾向にある。

販売地域は、全体で見ると道内が93.3%と圧倒的に高い割合であり、その内訳は、函館市内57.5%、渡島・松山25.2%、札幌5.6%などと、本市および渡島・松山に82.7%販売している状況にある。道外は関東地方が2.5%、東北地方が2.3%であり、業種別の状況もほぼ全体と同様の傾向を示し、大半が函館市内および渡島・松山に販売しているが、特に注目すべきは繊維品および衣服・身の回り品である。即ち、繊維品は東北地方へ18.2%、衣服・身の回り品も東北地方へ12.1%と取引構成が極めて高くなっている。

本市の卸売業は、地元製品を取扱う農畜産物・水産物および食料・飲料の業種において道内、道外に広く販売市場を有しており、また、鉱物、金属材料の関東地方への販売（石油製品等）、建築材料の東北地方（ヒューム管等）およびその他の地方（チップ・古紙等）が比較的販売額は大きいですが、全体的にみて、主に地元の最終消費需要に依存する卸機能としての性格が強いことを示している。

仕入のための輸送機関としては、営業自動車総仕入量の74.1%を占めて圧倒的に高い割合を示しており、次いで自家用自動車15.0%、鉄道2.3%、フェリー0.3%、航空0.2%などの順となっている。

販売のための輸送機関は、営業自動車が総販売量の46.0%、自家用自動車が44.7%と自動車で90.7%を占めている状況であり、仕入の状況と比較して自家用自動車の利用度が高い。

(2)青森市等との流通状況

青森市との流通状況をみると、青森市へは

総販売額の0.7%に当たる約39億円を販売している。

業種別の販売状況は、衣服・身の回り品が9億円（39億円の22.6%）で最も多く、次いで建築材料8億円（同21.0%）、農畜産物・水産物7億円（同16.9%）、繊維品5億円（同13.3%）などの順となっており、概ねこの4業種に特化しており、流通経路別卸機能からの状況では、最終卸が総販売額の66.8%、元卸が24.7%、中間卸が8.5%となっている。

また、下北地方との状況については、約14億円の販売額で、総販売額の0.3%と僅少であり、極めて取引関係が薄い状況にある。

業種別販売状況は、衣服・身の回り品が5億円（14億円の38.7%）と最も多く、次いで機械器具が2億円（同12.3%）、食料・飲料が1億4,000万円（同10.3%）などとなっており、流通経路別卸機能で見ると、最終卸が下北地方への総販売額の92.5%を占め、圧倒的に高い割合を示している。

※企業の概要、経営の状況、大型店出店に伴う影響等については、次号に掲載いたします。

経済の窓

函館市卸売業 流通実態調査

調査の実施要領

(1) 調査の目的

この調査は、市内に所在する卸売業について、商品流通の状況、経営環境の状況等の実態を把握し、流通革新等に対応した経営基盤の強化、充実など今後の卸売業振興策を樹立するための基礎資料とすることを目的として実施したものである。

(2) 調査の方法等

① 調査の方法

調査票によるアンケート調査を郵送方式により行った。

② 調査の対象

調査地域は、市内全域とし、全卸売業（代理業、仲立業を除く。）を対象とした。

(3) 調査の実施期間

昭和58年8月31日に調査票を送付し、9月10日を提出期限とした。

(4) 回収状況

郵送数	対象外	実質対象数 (A)	実質回答数 (B)	回答率 (B)/(A)
1,327	130	1,197	843	70.4%

(注) 1. 対象外とは廃業、倒産、市外転出、業種転換および他業種である。

2. 実質対象数は郵送数から対象外を除いたものである。

流通状況の概要

(1) 流通状況の概要

流通実態調査の結果からその概要を要約する。

卸売業全体としては、主に仕入額の52.5%を生産者から、35.0%を卸売業者から仕入れており、それを小売業者へ41.9%、産業用ユーザーへ23.5%、卸売業者へ23.2%販売している。

流通経路の機能からみると、最終需要者等（小売業者、産業用ユーザーなど）との販売取引割合が75%を超える極めて高い割合となっている。

次に卸売業の流通経路を

元卸（生産者→卸売業者→卸売業者）

中間卸（卸売業者→卸売業者→卸売業者）

最終卸（生産者）
卸売業者→卸売業者→小売業者等

の3つに区分する。

元卸は、商店数が総数の12.0%、仕入・販売額はともに約13%、中間卸では、商店数が10.4%、仕入・販売額がともに約7%、最終卸は、商店数が77.6%、仕入・販売額がともに約80%を占めている。

さらに、元卸では、道内、道外からの仕入が多く、函館市内への販売が多い。中間卸では、市内卸売業者からの仕入が多く、最終卸では、道内（特に札幌）からの仕入と函館市内への販売が多くを占めている。

つまり、主に道内では札幌が、道外では関東地方が商品流通の中核をなし、元卸では、主にこの地域との取引を中心として市内の中間卸あるいは最終卸へと、また、札幌が元卸および中間卸として市内の最終卸へと商品の流通が行われているものと推測されるときも、本市の卸機能は、地元の小売業等に密着した最終卸の機能を果しているものと考えられる。

ヒント

榮 繁

これからの サービス業の あり方 (3)

七、サービスの充実

サービス業は荒利益率の非常に高い商売である。顧客はこれを無条件で認めているのであろうか？ 当然顧客は機能的サービスとしての料理・店舗の利用・技術などのほかに、心理的・道義的なサービスを求めているからそれを認めているのである。

サービス業の多くは、客の滞店時

間が長く、顧客の利用動機のなかに、心のくつろぎに価値を見る人も多いので、店内の居住性、くつろぎやすさの、心理的要素を作り出さないと、顧客の満足は得られない。また従業員の顧客への対応、接客サービスの良し悪しが、顧客とのコミュニケーション、店内ムードに影響を与え、顧客の回転、客単価の動向、顧客の固定化に大きな影響を与える。

その意味からも、従業員の接客手法、態度は重要な売り物であり、にこやかな接待とキメ細かな心くばりが大切といえる。そのためには、まず基本的なサービスを充実させ、さらに顧客に合わせて臨機応変にサービスを行うことが望まれる。基本的サービス五大用語、「いらっしゃいませ」、「かしこまりました」、「少々お待ち下さい」、「お待たせいたしました」、「ありがとうございますま

した」、の言葉を実身に身につけ、これらの言葉一つ一つをはっきりと、明るく、暖みのある音調で、しかも情感を込めて言えなければいけない。それと同時に相手に合った言葉、喜ばれる言葉使い、態度を通して、顧客に感じよくということを中心がける。接客のよさは従業員の姿が、顧客にとって、信頼のある、好感のもてるイメージとして心に残り、固定客となり、それが顧客の口コミで広まり、潜在客が顕在客となり、固定客につながることである。そうなるために、顧客の望むサービスは具体的にどのようなものがあるだろうか。

① 清潔感のある身だしなみ

顧客の店に対する第一印象は、従業員の身だしなみと態度でできまるといわれる。特にファッション、衛生関係のサービス業においては、服装、頭髪、手指のよごれなど、衛生感をきびしくすることが必要です。

② 迅速さ

現代は早さが望まれる。迅速機敏な動作や、滞店時間の長さを感じさせない、時間の経過を忘れさせるよ

クリーンなエネルギーをおとどけしています。
ガス灯からビル冷暖房まで...



業務用ガス器具・セントラルヒーティング・厨房機器総合設備・設計製作施工

新函館都市ガス株式会社

北海道函館市万代町8番1号 代41-3175番



うな、接客サービスが大切となる。

③ 正確さ

接客者は顧客の意図を正確に把握し、正確に表現、提供することが大切。人間とかく聞きまちがいが、見まがいが、思い違いなどの錯覚、誤解が生じやすいため、たえず確認、復唱を繰り返すことが必要です。

④ 明るさ

顧客との対応の中で、明るさほどこ、相手によい印象を与えるものはない。明るい笑顔、態度、言葉づかいが、顧客に楽しさ、満足を提供するために欠かせない条件である。

⑤ 差別をしない

差別をする応待に、顧客は不愉快になるし、顧客はプライドを持っているし、一人の人間として認めてもらいたいと思っているため、顧客を差別することはさげなければならぬ。そのほか顧客に対して親切であり、常に気を使い、心を配るようにして顧客の心にピタリくるような、接客サービスが必要になる。

八、店舗設備と店内演出

顧客に他店との差別化をはかるために、一番手取り早い方策は、設備・店舗の充実である。特に旅館業の設備は、客室・什器・備品・付帯設備など広範囲にわたり、特に付帯設備に顧客の志向が移りつつあり、そのほかの設備も近代化・合理化の名のもと、どんどん入れ替わっている。サービス業の販売活動において、店舗は常に売り場を提供し、利用動機を促し、価値の高い商売をするわ

けであるから、店舗も商品であり、利益を生み出す源泉であることを忘れてはならない。特に店内演出が大事で、感じのよい、なんとなくムードがよい店が、望まれている。顧客は店の良し悪しを店内で感じるフィロソフィ、雰囲気、イメージでとらえている。そこで店内に顧客の居住性や快適さ、楽しさを、対象顧客に合わせて演出することに心を配ることが必要です。

① 安心感を顧客に与える

サービス業は常に顧客に不安状況を作らないこと、安心して食事をしたり、技術を受けていただくために、安全設備の充実、施設・設備の点検、整備が必要であり、料金・価格の表示、会計システム等に十分の配慮することが必要です。

② 清潔感を顧客に与える

現代人は不潔な店、清潔感に無頓着な店には近寄らない。そのためには、店内外の清掃、整理整頓はもろんのこと、従業員の見だしなみ、食器・グラス・テーブルの汚れ、使用機器・機材に清潔感がただよっていることが必要である。

(日本マネージメント・リサーチ)

スポーツマンの専門店

株式会社 函館スポーツハウス

■本店/函館市松風町16番16号(東映劇場向い)

TEL (代) 22-0307

■支店/函館市本町8番21号(行啓通り)

TEL 55-1800・55-3800

「わが人生観、わが経営観」

花王石鹼
丸田社長 経営講演会

本所主催、函館市他後援による「経営講演会」（講師、花王石鹼株式会社、代表取締役社長丸田芳郎氏）が、去る六月二十三日午後一時から、ホテル函館ロイヤルで約二百人の経営者の方々を集め開催されました。

講師の丸田芳郎氏は財界の知性派としてまた化学部門のエキスパート（工学博士）として知られており、ダイカ榎相談役、大総一郎氏のかねてからの懇請により来函されたもので、「わが人生観、わが経営観」と題した当日の講演会では、同氏の技術者、経営者としての豊富な経験に裏打ちされたユニークな経営哲学の一端が披露されました。

冒頭同氏は、現代は社会的、経済的環境が急速に変化している時代であるとし、特に今後は、光ファイバーの利用あるいは通信衛星の利用による応用技術がここ四、五年先には完成し、通信体系といったものが大

きくかわり、それによる社会生活は抜本的変革を迫られることはほぼ間違いない、企業としてこれをどう乗り切っていくかが重要な課題となっているとした上で、十年なり二十年後における企業のあるべき姿に対して、長期の見通しとそれをどう進めるかについて確固たるビジョンを持つていなければならないと指摘、そのためには経営の最高責任者としてのトップリーダーが経営を実践する上においての規範、物差しを持っていなければならないとし、同氏はそれを聖徳太子と道元の教えに基づく仏教・儒教の解釈の中に求め、「和の憲法」といわれる「聖徳太子十七条憲法」、「道元禅師の教学哲理」等を引用し、「個」の完成と「集団」の統一、長としてあるべき姿、あるいは、仕事を行うに上においては心を無にして一心不乱に行ふべきであり、そのことによって初めて真理が見えてくるといった「観行一如」

に行ずる姿勢の大切さなど現代の企業経営に結びつく経営哲学を強調しました。

また講演の後半で同氏は、地域振興の問題に触れ、「地域振興は、まず地域の人々みずから立ち上るといふ気概をもつことが基本である」とし、そのためのリーダーシップをとる人間の必要性を指摘、米沢藩の産業振興を具体的例として紹介しました。

また大分県の平松知事と懇談した際の話引用し「二十一世紀に向けて急速に高齢化社会が進行する今日、知事として取りくむべき一番大きな仕事は、六十歳以上の老人の活性化と生きがいを見つけ出すことです。」と語ったことを紹介し、地域あるいは国としても考えていかなければならない課題であると述べました。また高度成長時代に肥大した財政に知らず知らずのうちに依存する体質ができ上がり、結果的にはこれが地域の自立の芽をつみ取ることになっている点を指摘し、地域振興の基本はあくまで、地域、地域の自助努力である点を特に強調しました。さらに同氏は、北海道の今後にお

いて一番重要な問題は、農業、漁業を中心とした資源産業の高度化であり、付加価値の高い製品づくりを行い、それを世界に供給できる力を持つことであるとし、特に今後はバイオテクノロジーを中心とした先端産業と結合することにより可能であり、それを可能にするのは日常農作物や魚に接している人達の体験から発想である点を特に強調しました。また同氏は、自社の経営戦略についても触れ、花王石鹼の研究開発部門は現在千二百五十人のスタッフをかかえ先端技術分野の研究を中心に取りくんでいることを説明し、また研究スタッフ全体の質の向上を目ざし、現在海外の有力大学の研究者を中期（約二年間）で受け入れ、自由な研究を行ってもらいその成果を世界に向けて発表していくといった体制を取っていることなどを説明しました。

最後に同氏は、今回の講演会をひとつの縁として、自社の工場・研究所などはいつでも公開するなど間接的ではあるが函館の地域振興にいささかなりともお役にたきたいと結び約二時間に亘る講演会を終了しました。